

令和6年5月10日

豊橋市教育委員会 様

所在地 愛知県安城市御幸本町7番9号
名 称 愛知ネット・
豊橋市シルバー人材センター共同体
代 表 天野 竹行

令和5年度 豊橋市青少年センター事業報告（提出）

見出しのことについて、別紙のとおり提出します。

豊橋教育委員会 教育部
生涯学習課 御中

令和5年度

豊橋市青少年センター事業報告書

指定管理者

愛知ネット・豊橋市シルバー人材センター共同体

はじめに

愛知ネットが当センターの管理運営に携わって丸 13 年、シルバー人材センターと共同して取り組んで3年が経過した。過去の実績を基盤に、安心安全な環境づくり、より利用しやすい施設運営、魅力的な講座イベントの企画、積極的な情報発信等に努め、市民に愛される社会教育施設を目指してきた。もちろん、当センターの本来の設置趣旨である「青少年の健全育成」に努め、社会の変化や若者のニーズなどに配慮しながら主催事業を実施し、青少年団体の活動を支援してきた。令和5年度はコロナ禍から脱却し、新たな1歩を踏み出した1年であった。

I. 令和5年度の目標

(1) 魅力的な自主事業の実施

→利用者ニーズに即した事業を企画し、発信や応募方法を工夫する。

→新たな視点での取り組みをし、シルバー人材を有効に活用する。

(2) 新たな利用者の開拓

→近隣大学で直接に学生にセンターの活動の紹介や参加を呼び掛ける。

→センターフェスティバルで様々なイベントを実施し、参加することによって周知する。

(3) 青少年健全育成の推進

→青少年団体の活動を紹介したり、発表したりする場を設定する。

→青少年団体の連絡会を開催し、情報交換や確認事項を共有する。

<数値目標>

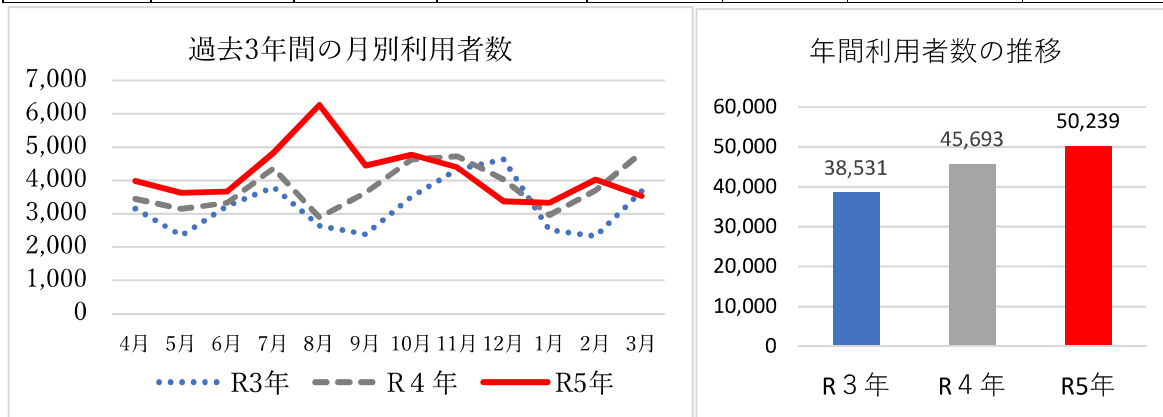
1. 利用者数 45,000 人 (2022 年度実績 45,696 人)

2. 講座等参加者数 2,000 人 (2022 年度実績 2,125 人)

II. 令和5年度の実績

1. 施設利用者数

	R3 年度	R4 年度	R5 年度				
	実績	実績	目標	実績	達成率	他施設使用	合計
利用者数	38,531 人	45,696 人	45,000 人	50,239 人	111.6%	3,136 人	53,375 人



令和5年度の利用者数は50,239人で、達成率は目標の45,000人の111.6%であった。

利用者の目標値を設定する時点(令和5年2月)では、コロナ禍の影響がどれくらい残るか予想

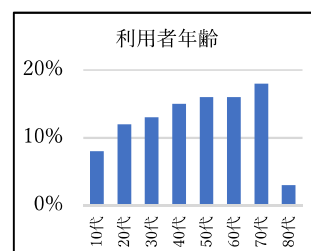
ができなかったため、やや控えめな数値(45,000人)とした。5月に新型コロナが感染症法上5類へ以降したこともあり、6年ぶりに利用者が5万人を超えた。環境整備に取り組んだり、職員の接遇を向上させたり、魅力ある講座やイベントを企画したりした効果もあったと思われる。

施設別の利用者数は下表のとおりである。

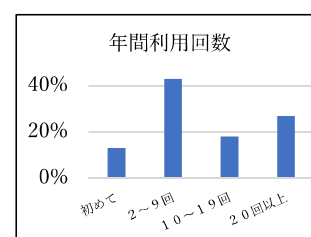
	中央棟	研修棟	宿泊棟	運動広場	合計
令和5年度	32,156人	11,888人	197人	5,998人	50,239人
令和4年度	32,047人	9,723人	193人	3,733人	45,696人

昨年と比べて運動広場の利用が6割増し、研修棟が2割増しとなり、全体として大きく増加した。

令和5年9月に実施した利用者アンケートの結果から、「利用者年齢」は10代から70代まで順に多くなっている。社会教育施設として幅広い年齢層の方に利用いただけているのは意義あることではあるが、青少年センターであるので10代、20代の利用の拡大を図っていきたい。



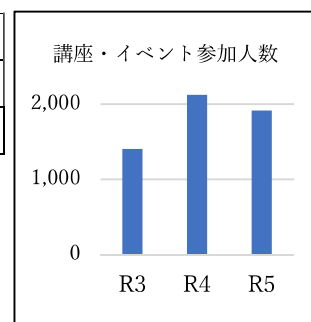
「年間利用回数」は2~9回が最も多く、次いで20回以上となっている。前年は年間に20回以上利用している固定客が半数を占めていたが、今年度は新たな利用者も増える傾向にある。



職員の対応については、「大変良い」「良い」合わせて100%であり、概ね良好のようである。安心して気持ちよく使ってもらえる施設を目指して日々努力をしていることが、少しずつ結実していることを実感している。

2. 講座等参加者数

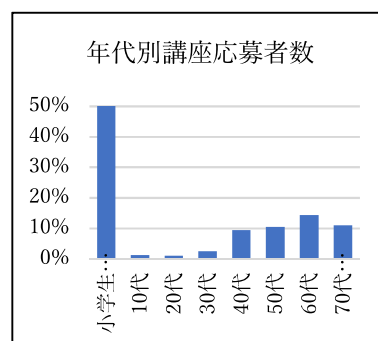
	R3年度	R4年度	R5年度		
	実績	実績	実績	目標	達成率
参加者数	1,403人	2,125人	1,911人	2,000人	95.6%



令和5年度の講座等の参加者は延べ1,911人であり、目標に対する達成率は95.6%であった。前年度と比べて214人の減少となった。計画した41講座のうち「昔の遊び」が暴風警報のため中止となった。

達成率が伸びなかったとして考えられる主な原因は次の3点である。

- (1) 応募者数が大きく定員割れした講座があった
 - ・俳句40% バドミントン50% オカリナ60%
- (2) 参加率が極端に低い講座があった
 - ・ヒップホップ66% バドミントン67%
- (3) センターフェスのイベントの内容を変更した
 - ・家族deバドミントン、家族de卓球、ドローン体験のいずれも参加者が少なかった。



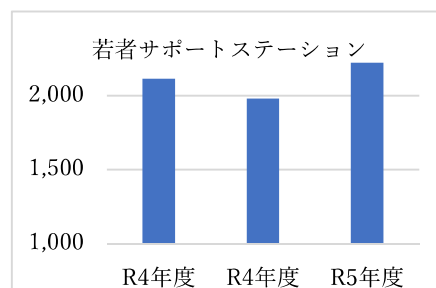
年代別の講座等の応募者数を見ると、小学生が50%を占め圧倒的に多い。年間41種の講座のうち小学生、親子または三世代対象の講座が18種あったこと、保護者の関心が高いこと、小学生は比較的自由な時間があることなどが原因として考えられる。一方、10代から30代の講座への応募が少ないがその原因としては、忙しくて自分のために使える時間が少ない

こと、参加したくなるような講座がないこと、参加しにくい時間帯であることなどが考えられる。内容や方法を工夫してより多くの方の参加に努めたい。

Ⅲ. 関連団体施設利用者数

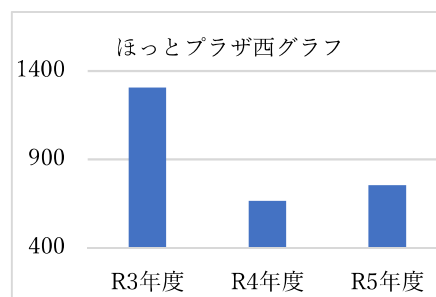
1 若者サポートステーション

若者サポートステーション 年間利用者数			
	R4 年度	R4 年度	R5 年度
利用者数	2,113 人	1,980 人	2,223 人
前年度比	113.1%	93.7%	112.3%



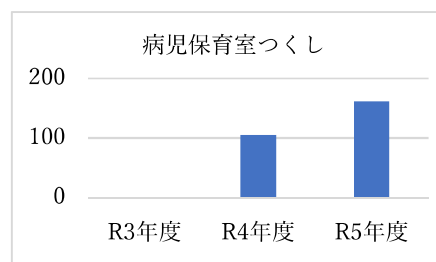
2 ほっとプラザ西

ほっとプラザ西 年間利用者数			
	R3 年度	R4 年度	R5 年度
利用者数	1,304 人	663 人	752 人
前年度比	94.4%	50.8%	113.4%



3 病児保育室つくし

病児保育室つくし 年間利用者数			
	R3 年度	R4 年度	R5 年度
利用者数		105 人	161 人
前年度比		R4 設置	153.3%



Ⅳ 収支状況

R5 年度収支状況

単位：千円

期	収入	支出	差額
第1四半期	10,614	9,733	881
第2四半期	10,575	10,378	197
第3四半期	10,517	9,869	648
第4四半期	10,539	10,545	-6
公租公課		1,720	-1,720
合計	42,245	42,245	0

電気料金、燃料代をはじめ物価の高騰が経営を圧迫しているが、利用者へのサービスを低下させることなく、経費の節減に努めた。具体的には消耗品等の無駄を極力なくし、軽微な修繕はできる限り職員作業によって対応した。また、業者への依頼も内容をよく精査して交渉したり、業者を吟味したりすることによって支出を抑えた。

V まとめ

1. 利用者の復活

3年間続いた新型コロナのパンデミックもようやく収束し、通常の日常が戻ってきた。利用者は6年ぶりに5万人を超え、若者サポートステーションなどセンター内に事務所を置く団体の利用を合わせると52,000人を超えた。今後も環境整備、適切な接遇、魅力の発信に取り組んでいきたい。

一方、講座・イベントの参加者については前年度比10%減となった。講座によってはリピーターの割合が多いため新規の方がなじみにくい雰囲気があるもの、講座そのものに魅力のないものもあるようである。参加者の声をよく聞き、どんな内容が求められているのか、内容、方法、情報発信の仕方など検証し、改善すべきことは積極的に改めていきたい。

2. 指定管理

平成23年(2011年)に愛知ネットが指定管理を受けて以来13年が経過した。その間に地域に根差した様々な取り組みをし、確かな評価と信頼を得ることができたと自負している。また、令和3年度から豊橋市シルバー人材センターと共同して企画運営にあたり、これまで以上に地元の力を活かし、より幅広いセンター運営ができるようになった。

今回4期目(令和6~8年度)の指定管理を受諾することになり、これまでの成果と課題を踏まえてさらに魅力的な青少年センターを目指して努力していきたい。特により多くの若者が利用するような自主講座の開催や情報発信の工夫をしていきたい。

3. 課題

(1) 物価・人件費の上昇

デフレから脱却するために、国の政策として「物価の上昇」と「給与の引き上げ」が進められている。豊橋市青少年センターの場合、収入のほとんどは指定管理料が占めており、施設の利用料金は全て市の収入となるため、利用者を増やしても収入増には結びつかない。つまり物価や人件費の上昇分を捻出するには、支出を切り詰めるしかない。無駄の排除、紙などの再利用、職員による補修などあらゆる手立てを講じているが、指定管理料が減額される中、物価がさらに上昇することによって、やりくりがさらに厳しくなる。

(2) 事務所等の増加

当センターには以前からある子ども会連絡協議会、若者サポートステーション、適応指導教室、地域総合型クラブに加え、令和4年度から病児保育室、令和5年度から少年愛護センター、そして令和6年度からは少年サポートセンターが開所し、計7事務所が営業することになる。各事務所への連絡や調整、消耗品の交換、施設修理などの負担が大きくなってきている。また、それぞれの職員が自家用車で出勤するため、利用者の駐車スペースの確保も課題である。

(3) 施設の老朽化

築50年が経過し、施設設備の老朽化が顕著になっている。特に水回りや電気関係の不具合が目立つ。トイレのフラッシュ弁の劣化をはじめ、樹木の根の入り込みに起因する排水管の詰まりも発生した。不具合が判明した時には迅速に対応するようにしている。一方、生涯学習課で排水管の詰まり、研修棟の階段手すり設置、野外照明の取替えなどを行ってくれたおかげで、より利用しやすくなった。今後も生涯学習課と情報を共有しながら、老朽化について適切に対処していきたい。